

## 1 放課後子ども総合プランの趣旨、目的

共働き家庭等の「小1の壁」を打破するとともに、次代を担う人材を育成するため、全ての児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、一体型を中心とした放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）および地域住民等の参画を得て、放課後等にすべての児童を対象として学習や体験・交流活動などを行う事業（放課後子供教室）の計画的な整備等を進めます。

## 2 放課後児童クラブおよび放課後子供教室の状況

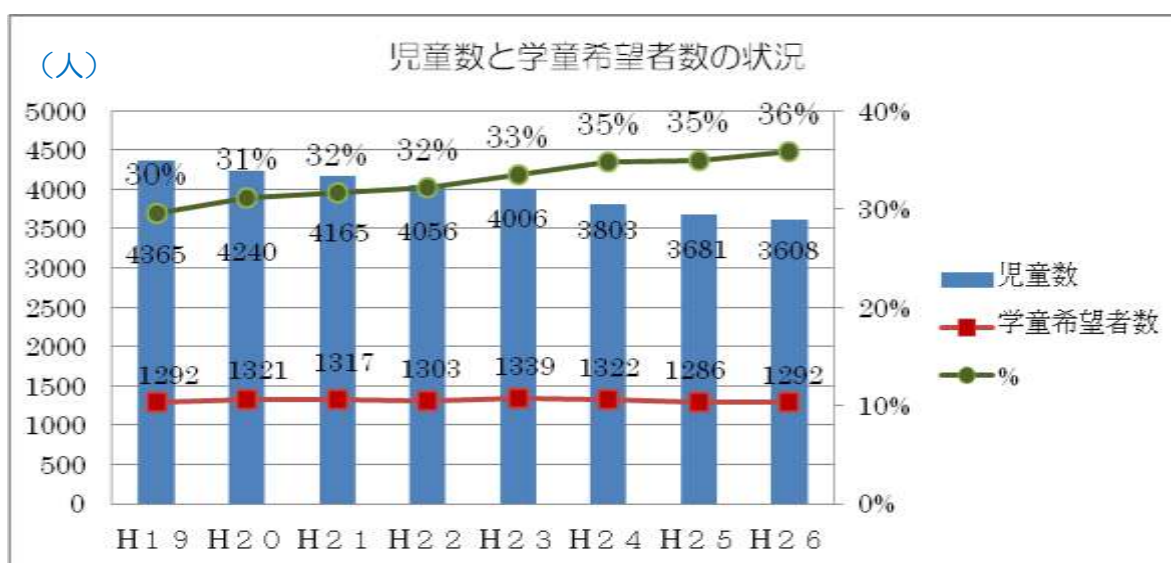
### (1) 放課後児童クラブの状況

#### ア 児童数と学童希望者数

現在、東小学校（児童自立支援施設）を除く市内 16 小学校全てにおいて、学童保育事業を実施しています。

下図からもわかるとおり、平成 19 年度と平成 26 年度を比較すると、市内の小学校（1～3年）の児童数は、17%減少しています。一方、対象児童に対する学童保育所入所希望割合は、平成 19 年度 30%から平成 26 年度には 36%と、学童保育の利用希望は児童数の減少とは反比例して 6 ポイント上昇しています。

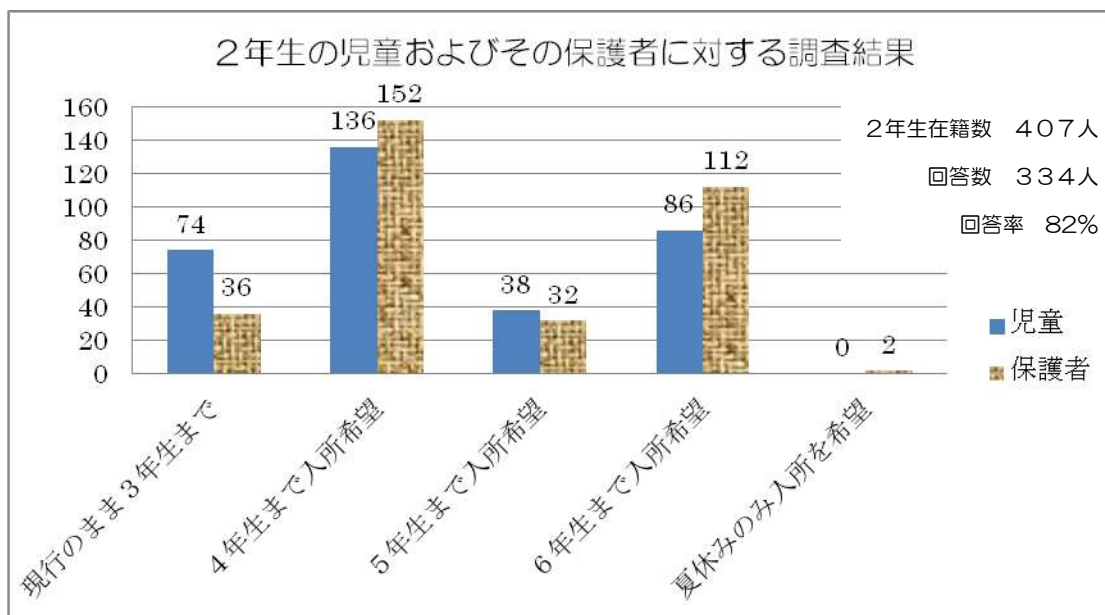
この上昇は、保護者の就労によるものだけでなく、児童が安全・安心に放課後を過ごせる居場所の必要性が増加してきていることを示しています。なお、来年度全学年を対象として事業を行った場合、低学年の優先的な入所の規定および現在年間を通して待機児童が出ていない学童保育所が少ないことなどから、高学年児童の多くが待機児童となると想定されます。



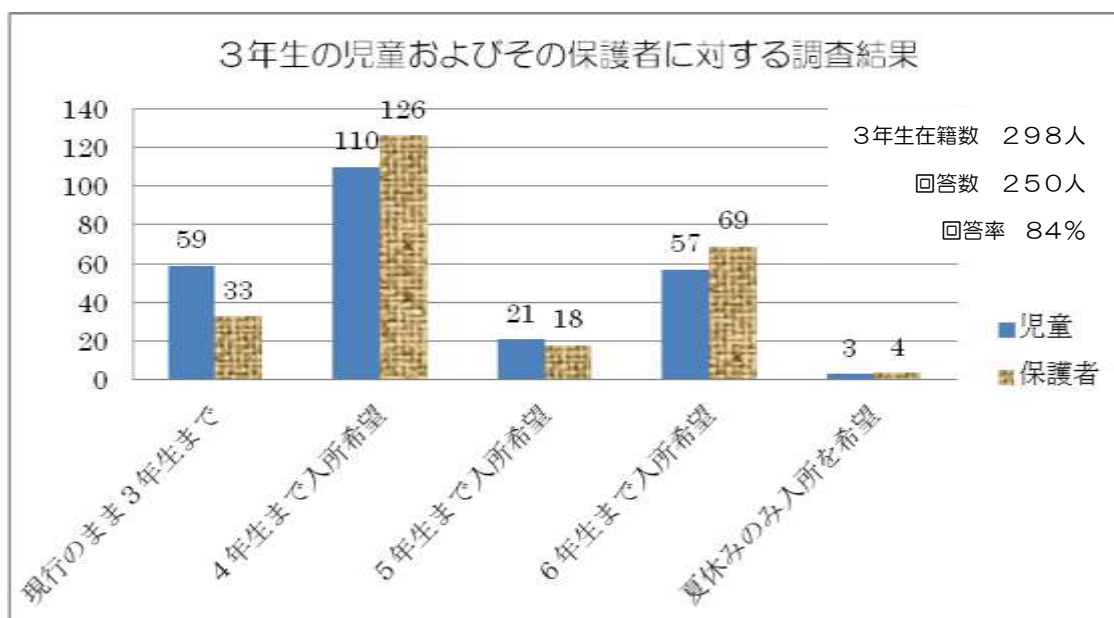
## イ 高学年学童の利用希望調査の結果

平成26年に、現学童保育所を利用している2年生、3年生の児童とその保護者に対し、今後高学年になった場合における、学童保育所の利用希望を調査しました。「受け入れる学年が引き上げられた場合、何年生まで入所を希望しますか。」の質問に対し、結果は次のとおりです。

(単位：人)



(単位：人)



両学年とも、保護者による、学童保育所の利用希望が比較的多いことが分かります。また、6年生まで利用を希望する児童と保護者も多くなっています。

(2) 放課後子供教室の状況

ア 平成26年度現在、9校の小学校で実施しています。

- 平成19年度から実施した小学校
  - ・青梅市立霞台小学校（水曜日：午後3時～5時）
- 平成21年度から実施した小学校
  - ・青梅市立第五小学校（月曜日、金曜日：午後2時30分～5時、水曜日：午後1時30分～5時）
  - ・青梅市立友田小学校（水曜日：午後2時45分～5時）
- 平成22年度から実施した小学校
  - ・青梅市立第七小学校（水曜日：午後1時45分～5時、金曜日：午後2時30分～5時）
- 平成24年度から実施した小学校
  - ・青梅市立第四小学校（金曜日：午後1時30分～5時）
  - ・青梅市立第六小学校（火曜日：午後2時30分～5時）
- 平成25年度から実施した小学校
  - ・青梅市立第三小学校（水曜日：午後3時～5時）
  - ・青梅市立河辺小学校（水曜日：午後2時15分～5時）
- 平成26年度から実施した小学校
  - ・青梅市立第二小学校（水曜日：午後1時30分～4時45分）

※学校行事、冬期間などの理由により、開催時間は変更となる場合があります。

イ 平成26年度の放課後子供教室の平均利用者は下表のとおりとなっています。また、平成26年度の放課後子供教室の平均利用者に、放課後児童クラブの利用人数を加えた、一体型または連携型の利用予想人数は右表のとおりで、特に第二小、第三小など多人数になるところの実施方法が課題といえます。

● 放課後子供教室の平均利用者

（平成26年11月現在）

第一小	—	河辺小	56人
第二小	115人	新町小	—
第三小	52人	霞台小	50人
第四小	71人	友田小	54人
第五小	46人	今井小	—
第六小	32人	若草小	—
第七小	58人	藤橋小	—
成木小	—	吹上小	—
		合計	534人

● 一体型または連携型の利用予想人数

（平成27年度）

第一小	—	河辺小	141人
第二小	231人	新町小	—
第三小	182人	霞台小	139人
第四小	130人	友田小	99人
第五小	128人	今井小	—
第六小	58人	若草小	—
第七小	82人	藤橋小	—
成木小	—	吹上小	—
		合計	1190人